松本市文化財調査報告No.43

松本市蓮台遺跡

——緊急発掘調査報告書——

信州大学附属図書館
定期刊行物

1986.3

松本市教育委員会

松本市蓮台遺跡

——緊急発掘調査報告書——

1986.3

松本市教育委員会

序

岡田地区は本郷地区とともに、古代の遺跡が多く、現在の住宅地と重なっているところも多い。

今回の調査は市道建設に伴うもので、蓮台遺跡の西端に接するために、記録保存をはかったものである。

調査は5日間程の短期間で、検出された遺構も判然としなかったが、僅かではあるが奈良・平安時代の須恵器や、近世の遺物もあり、この地一帯が、古くより栄えていたことをうかがわせる。

上記のように調査は短期間ではあったが、それらの調査については地元を中心とした方々にご協力いただいた。記して感謝申しあげるとともに、ご協力いただいた関係機関の方々にも、文化財保護の見地よりご理解いただいたことに敬意を表し、御礼申し上げる。

昭和61年3月

松本市教育委員会

教育長　　中　島　俊　彦

例　　言

1．本書は昭和60年10月21日から10月23日にかけて行なわれた、松本市岡田蓮台遺跡の緊急発掘調査に関する報告書である。

2．本調査は地方改善施設整備事業（地区道路）1244号線改良工事に伴う緊急発掘調査で、調査は松本市教育委員会が行なったものである。

3．本調査は神沢昌二郎が担当し、事務局は松本市教育委員会社会教育課文化係があたった。

4．本書の編集は事務局が行なった。

5．本書作成にあたっての製図、トレースは向山かほるが担当した。

6．本書掲載の遺物写真は岩渕世紀氏にお願いした。

7．出土遺物及び図類は松本市教育委員会に保管してある。

目　　次

周辺遺跡……1
第1図……2
第2図……3
第3図……4
調査の結果……5
写真図版

周辺遺跡　（第1図）

岡田地区は松本市の北北東に位置する南向きの丘陵地を主とする地域である。西方の城山山塊の塩倉池遺跡から旧石器時代の遺物が表採されていることより、当地域の歴史は古く、続く縄文時代には、前期（キツネ塚、白金町）、後期（西塩倉）とまばらであるが、中期の遺跡数は急増し、広範囲に分布している。女鳥羽川によって形成された微高地に沿って、北から西小路、道間、西裏、上の段遺跡、やや西によって、さがり遺跡、山麓に沿っては北から、矢作、向山、宮ノ後遺跡、中腹に登って、田溝南、塩倉池、塩倉峰、峰の平遺跡と続く。

縄文時代中期の遺跡数の多さに比べ後期、晩期の遺跡数は急減し、続く弥生時代には僅かに西光寺畑、白金町の二遺跡が知られているだけであるが、田溝南で銅鏃が採集されるなど今後の発見が期待される。[註1]

古墳時代以降には当地域全面に遺跡が広がり、微高地に沿って北から一里塚、中島、今回調査を行った蓮台と続き、大願寺址、阿弥陀堂遺跡、西裏から西南へ移って、さがり、山伏塚、上ノ段遺跡があり、城山山塊中腹では田溝池を中心とした遺跡がある。山伏塚遺跡以外は正式な調査が殆どなく、遺物採集地も多いことから、時期・概要などに不明点を残すが、古墳時代以降、特に奈良平安時代の遺跡の集中度が他に比べ高いと思われる。

当地域には古墳も多く分布し、女鳥羽川の氾濫原には猫塚古墳、水汲古墳群を中心とする積石塚古墳群が広がり、南に下って元原古墳群までを含めると、相当広い範囲を有している。これに対して城山山塊には単独墳として塩倉塚山古墳があり、その様相は氾濫原に位置する古墳群と好対照をなしている。いずれの古墳の造営期も古墳時代後半以降である。

また、当地域の最も大きな特色として、城山山塊の芥子坊主山に分布する平安時代の古窯址群がある。これらは比較的平坦な山稜の緩やかな傾斜と、浅い谷の発達という地形に加え、原材料の確保が容易であるという好条件下に形成されており、現在の所、山田古窯址群と田溝池古窯址群が知られている。過去に一部が調査されてはいるが、大部分は未調査のままである。古窯址の全容は不明であるが、集落址との関係も含めて今後の調査、研究が期待される。[註2]　（小口妙子）

参考文献

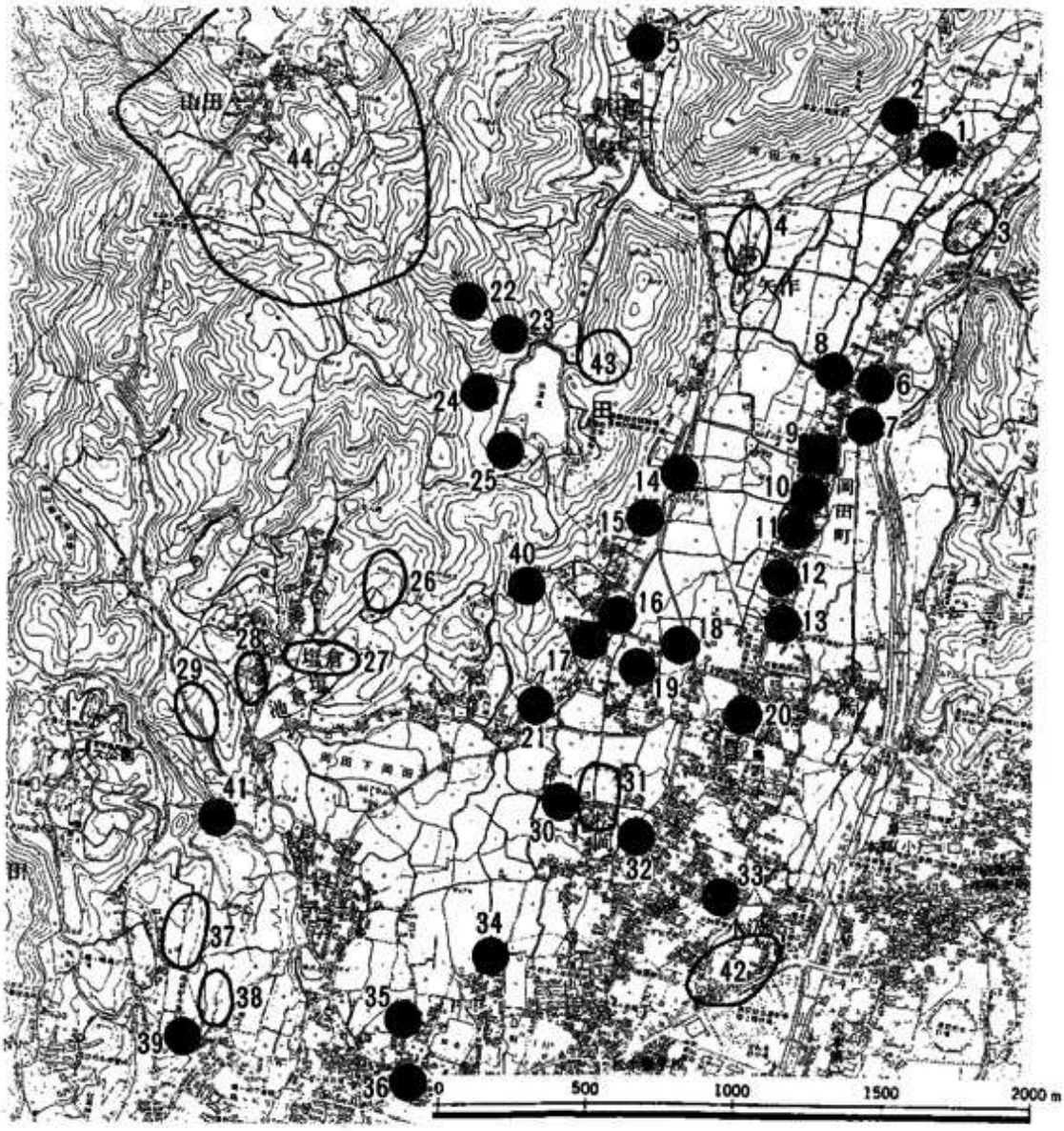
藤沢宗平他『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』　昭和48年

註

(1)原嘉藤「田溝池出土の銅鏃」『信濃』Ⅱ－7　昭和17年

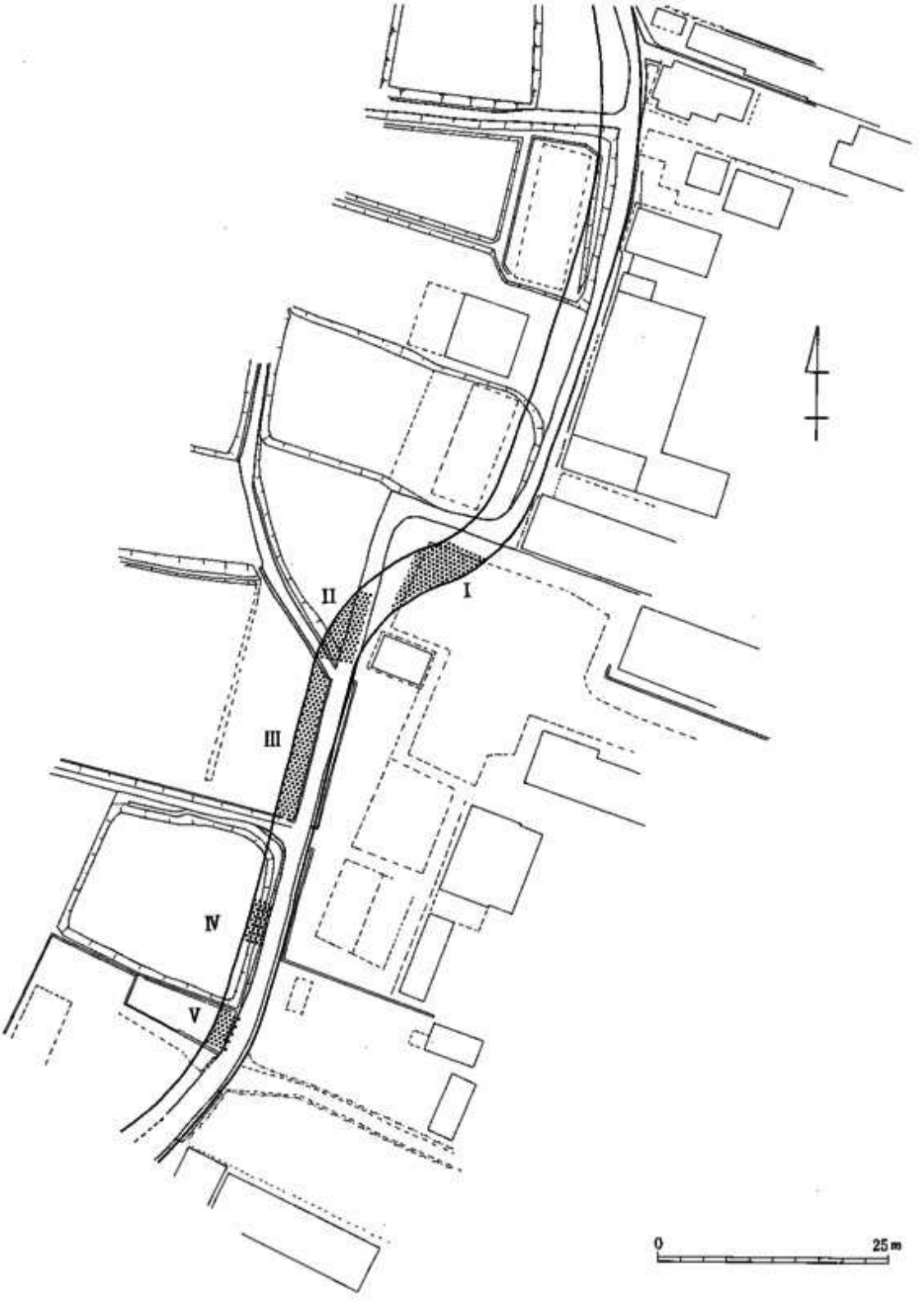
(2)中島豊晴・河西清光「松本市田溝古窯址の調査」『信濃』Ⅲ16－4　昭和39年

　遠部慶麻呂「長野県松本市岡田地区田溝池における須恵器窯跡の調査」『信濃』Ⅲ21－12　昭和44年

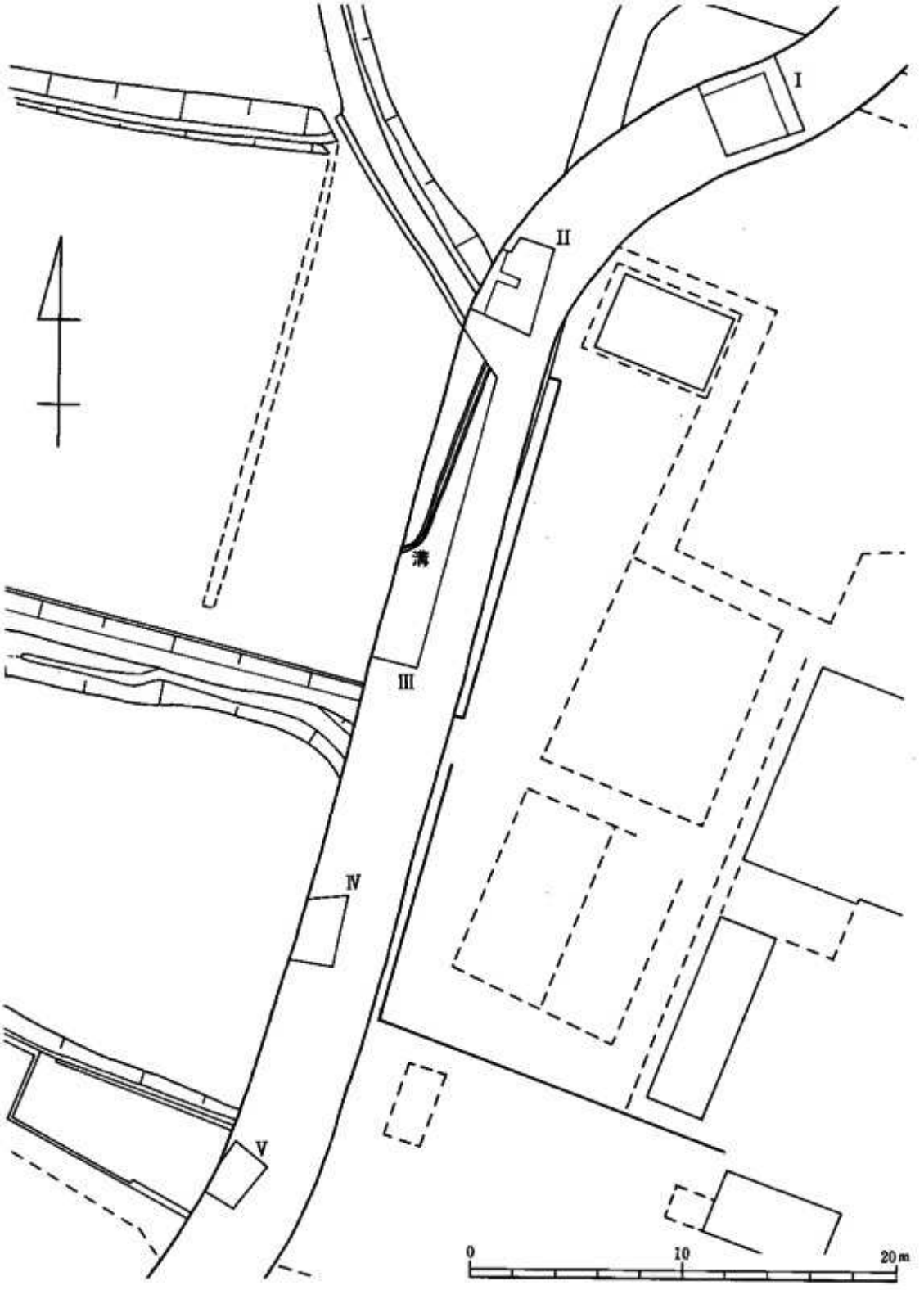


1．西小路遺跡
2．慶弘寺跡遺跡
3．一里塚遺跡
4．矢作遺跡
5．安上遺跡
6．道間遺跡
7．高根遺跡
8．中島遺跡
9．蓮台遺跡
10．大願寺遺跡
11．阿弥陀堂遺跡
12．西裏遺跡
13．下出口遺跡
14．向山遺跡
15．西光寺畑遺跡
16．宮北遺跡
17．宮ノ後遺跡
18．中田遺跡
19．　之内遺跡
20．猫塚遺跡
21．矢崎遺跡
22．田溝中ノ沢遺跡
23．田溝入遺跡
24．田溝西遺跡
25．田溝南遺跡
26．御宝殿遺跡
27．塩倉池遺跡
28．西塩倉遺跡
29．塩倉峯遺跡
30．山伏塚遺跡
31．さがり遺跡
32．上ノ段遺跡
33．反目遺跡
34．どうこん原遺跡
35．キツネ塚遺跡
36．白金町遺跡
37．峰の平遺跡
38．貯水池東遺跡
39．貯水池南遺跡
40．清水入古墳
41．塚山古墳
42．水汲古墳群
43．田溝古窯址群
44．山田古窯址群

第1図　周辺遺跡



第２図　調査範囲図



第3図　調査地周辺全体図

調査の結果　（第2・3図）

蓮台遺跡は松本市岡田岡田町に所在し、岡田西裏遺跡の北方約500mのところに位置し、同遺跡と同じ台地上にあたる。遺跡の範囲は現在の集落内及び西側の水田地帯と広い範囲に分布しており、本来は須恵器及び土師器を出土する古墳時代以降の遺跡として周知されていた。調査に先立って実施された周辺の畑、水田の表面採集でも、縄文時代中期と思われる土器の小破片が採集され、縄文時代の遺構が存在する可能性も窺わせた。今回の調査は市道建設に伴う緊急調査で、調査地は集落の西側で現在田んぼ道となっている市道建設予定地内である。調査時期が稲刈期と重なったため道を破壊することができず、範囲がごく限られたものとなってしまった。このため所英三氏の御好意により隣接する同氏の敷地内に一部調査地を設定しⅠ地点とした。Ⅱ～Ⅴ地点は田んぼ道上に設定し北よりⅡ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ地点とした。調査面積はⅠ地点16m²、Ⅱ地点10m²、Ⅲ地点34m²、Ⅳ地点6m²、Ⅴ地点5m²、合計71m²である。以下、地点別に記述したい。

Ⅰ地　点

所氏宅敷地内の市道建設予定地で、重機による表土排除ができないため、4×4mのグリットを設定し上面から手掘りにより掘り進めた。Ⅰ層は表土で10cm、Ⅱ層は小石の混る茶褐色土で30cm程続く。Ⅲ層は暗灰色砂礫層となりこの層には遺物を含まない。遺物はⅠ、Ⅱ層内に見られ主な包含層はⅡ層である。今回は遺構の確認ができなかったが遺構がある可能性はⅡ層内とⅢ層上面であろう。

遺物の種類は須恵器甕、坏、土師器甕及び擂鉢、皿等の近世陶、磁器である。この内近世磁器の皿及び同系統の小坏については松本城二の丸御殿跡で同様なものが出土しており、19世紀後半の磁器であろう。

Ⅱ地　点

田んぼ道上で一部水田にかかる。Ⅰ層の表土、Ⅱ層は水田内が黒色土、道は黄褐色土で遺物は主に黒色土内から出土した。南側は道路下に10cm大程の石が多量に入れられており、その中に須恵器甕、坏片が見られた。これは石といっしょに周辺から投げこまれたもので、これらを伴う遺構の存在を思わせる。

Ⅲ地　点

耕作土下40cmが検出面で黄褐色砂粒の混る茶褐色土で、遺構は溝が1基検出された。巾は40cm、深さは20～30cm前後である。遺物は近世陶器片数点であり検出面からは須恵、土師器片数点である。

Ⅳ、Ⅴ地　点

耕作土下40～60cmで茶褐色粘質土となり、湧水があり遺構、遺物は認められない。

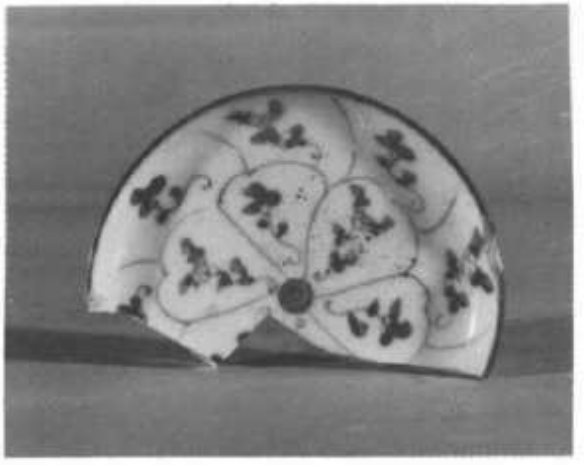
以上調査の結果であるが、調査範囲に限りがあり十分な調査ができなかった。最後に調査にご協力くださった地元の方々及び調査に何かとお世話をいただいた所氏に記して感謝いたします。

（熊谷康治）

Ⅰ地点　作業風景

Ⅲ地点　溝

Ⅰ,Ⅲ地点　出土



Ⅰ地点　出土

遺構・出土遺物

松本市文化財調査報告No.43

—松 本 市 蓮 台 遺 跡—

昭和61年3月20日　印刷
昭和61年3月31日　発行

発行　松 本 市 教 育 委 員 会

印刷　株式会社　綜 合 印 刷 所